

研究課題：膿胸に対する初日の胸腔ドレナージ量と手術適応

1. 研究の目的

膿胸は肺炎等の胸腔内の感染症の悪化や遷延により胸腔内に膿瘍ができる病態のことを言います。膿胸の治療は保存的治療（抗生剤、胸腔ドレナージ）と外科的治療に大別されます。ほとんどの症例がまず保存的治療を施行し、治療効果が不十分とされる症例に対して外科的治療を施行することが一般的です。ですが、この保存的治療に対して「治療効果不十分」とする定義は定まっておらず、医師の総合的な判断に委ねられているというのが現状です。よって、多くの症例では保存的治療を一定期間施行してから外科的介入の要否を判断するため外科的治療を施行するまでも一定の期間を置く必要があります。

よって、本研究では胸腔ドレナージを施行した際の初日のドレナージ量とその後手術の要否を検討することで速やかな手術介入の要否を判断することが可能となり、結果的には入院および治療期間の短縮に寄与すると考えています。

2. 研究の方法

2014年1月から2024年7月までに膿胸と診断され、胸腔ドレナージを受けた患者様が対象となります。診療録から、生まれたときの状態や体重、既往歴や併存疾患、手術時期や手術内容、および術後の経過と再発を含めた合併症についての情報を調べまとめます。

3. 研究期間

2024年9月（倫理委員会で承認を得られた日）から2027年3月31日まで。

4. 研究に用いる資料・情報の種類

診療録から、生まれたときの状態や体重、既往歴や併存疾患、手術時期や手術内容、および術後の経過と再発を含めた合併症についての情報を調べまとめます。画像（個人情報は一切含まない）が論文内に掲載されることがあります。

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用されることはありません。

6. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター

研究責任者：外科 科長 川嶋 寛

研究分担者：外科 医員 津坂 翔一

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、2025年3月31日までに下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構

埼玉県立小児医療センター

医事担当（代表 048-601-2200）